



「3袋から2袋へ」ごみの収集袋数上限を見直し

本市では、家庭ごみの収集につきま... 45リットル以下のごみ袋で区分ごとに1回3袋を上限として収集して

本市のごみ総排出量は年々減少し、各家庭の平均的な排出量は、1〜2袋程度となつています。しかし、ごみ処理コストは上がっており、一層の排出抑制を図る必要があります。

さらなるごみの減量化・資源化の意識を高めていただくため、家庭ごみの収集袋数の上限について、4月1日から現状に則した量に合わせ、3袋から2袋へと見直しを行います。

問 クリーンセンター業務課 TEL 06・6991・3840

喫煙マナーを守って、きれいな街に

喫煙マナーを守って、きれいな街に 昨年12月4日に大日駅前交通広場に喫煙スペースができましたので利用してください。



日本たばこ産業株式会社大阪支社寄贈

啓発物品の配布

お金をだましとる特殊詐欺の電話がかかってきたとの相談が寄せられています。電話による特殊詐欺の被害を未然に防止するため、「詐欺撃退ポップアップ」を配布しています。

備 無くなり次第終了 配・問 2月15日(木)より消費生活センター TEL 06・6992・1337

集(無料)を行っています。

事業所から排出される一般廃棄物は、一般の家庭から出されるごみに比べ、分別やリサイクルが進んでおらず、その処理のための費用がかさんでいます。この取り扱いを3月31日をもって廃止し、4月1日以降は、事業所から排出される一般廃棄物の減量化、リサイクルの推進を目的に、事業活動に伴って生じた一般廃棄物については、少量であっても、行政による定期収集(無料)を行いません。

問 クリーンセンター業務課 TEL 06・6991・6313

開始 持ち込みごみの予約制

持ち込みごみの予約制度を1月4日から開始しています。2営業日前までに予約すると、スムーズな持ち込みが可能です。予約せずに来場された場合、当日の搬入はお断りします。

TEL 06・6991・5004(持ち込みごみ予約ダイヤル)

「平成29年度版もりぐちの環境」を発行

冊子は、守口市情報コーナー、各コミュニティセンター、ムーブ21、エナジーホールで閲覧できます。また市ホームページにも掲載しています。

問 環境政策課 TEL 06・6992・1508

ゆずります・ゆずってほしい

登録受付・紹介のみ(品物はお預かりしていません)。 2月11日(日)午前9時30分〜正午、25日(日)午前9時30分〜正午

注 詳細については右記の2日間にて消費生活リーダークラブ(消費生活センター内) センター内) TEL 06・6992・1337

- ☆ゆずります▽ベビーベッド▽テレビ台▽本棚▽ケース入りひな人形▽後二輪の大人用三輪自転車▽椅子付きの学習机▽CD新品4枚▽製図用スケール3点セット▽テーブルと椅子のセット▽携帯ドライヤー▽ステンレスボール3点セット▽そろばん

★ゆずってほしい▽水槽▽水槽用上部フィルター▽グラインドゴルフクラブ▽テレビ▽洗濯機▽卓上ミシン▽前二輪の大人用三輪自転車▽二段踏台▽テーブル

注 申し込み複数の場合は各日の受付終了後にセンターで抽選。品物の故障や破損については責任は負いません(無料の商品のみ扱っています)。受け付けについては随時行っています。

パブリックコメントの実施

「守口市災害廃棄物処理計画」(素案)

市では、災害発生時の生活ごみ、避難所ごみ、し尿および災害によって発生する廃棄物について、迅速かつ適正に処理する為に、基本的事項や考えなどを定めた「守口市災害廃棄物処理計画」を策定する予定です。

この度、計画の策定にあたりパブリックコメントを実施します。

募集期間 2月15日(木)〜3月16日(金)

閲覧・提出場所 クリーンセンター、環境政策課、各コミュニティセンターなどの市施設また、市ホームページにも掲載。

提出方法

▽閲覧場所へ持ち込み ▽郵送(〒570-0042 寺方錦通4-9-12クリーンセンター業務課)

注 3月16日(金)消印有効 ▽ファクス FAX 06-6991-7188

▽メール MORI_clean_genryou@city-moriguchi-osaka.jp

注 住所、氏名、連絡先は必ず記載してください。

問 クリーンセンター業務課 TEL 06-6991-6313

野良猫を増やさないで

生涯飼養に努め、責任の持てないエサやりは、やめましょう。

市では、猫の不妊・去勢手術費の補助をしています。

問 環境政策課 TEL 06-6992-1511



(一社)日本新聞協会 主催 「2017年度新聞広告クリエイティブコンテスト最優秀賞受賞作品」 作品名「カワイイ?」

LGBTって知っていますか(最終回)

こんな幸せもあるんだ!



大久保夫婦(写真左 LGBT講師 大久保暁さん)

「男として生きたい」と母にカミングアウトしてから何度も話をしました

が、母は私(娘)を心配する気持ちから認めませんでした。この先、男になれたとしても世間は甘くない、せっかく先生もしているのどうなのかと。

私は、一から出直す覚悟で、教員を辞め、治療を開始しました。そして、戸籍変更までたどり着くことが出来ました。

その後、環境を変えるために地元を離れ、大阪へ戻ってきました。両親はまだまだ不安で仕事にも就けるのかを心配していました。そんな中、無事就職が決まり、男として初めての仕事に就きます。両親に報告をするととても喜んでおり、男としても生きていけることへの感謝を忘れないようにと言われました。

大阪での生活も3年になろうかという頃、友人からの紹介である女性と出会います。その女性は私がトランス

ジェンダーだということを理解し連絡を取るようになり、数カ月後にお付き合いを始めた。LGBTなどにも偏見がなく、温厚な彼女の性格に惹かれ、私はすぐに将来を意識し、2カ月後には両親に紹介をしました。そこではいつもよく喋る両親が物静かで、かなり緊張しているのが伝わってきました。「ウチの子でいいの?」母の精一杯の言葉だったのでしよう。男として生きていくても結婚なんて考えてもいなかった両親。心配ばかりかけてきた私がようやく親孝行ができたかなと思っっています。

彼女のご家族の理解もあり、無事結婚することが出来ました。今は妻と本当に幸せな毎日を送っています。私がトランスジェンダーではなかったら妻や大切な仲間とは出会っていません。この人生に全く後悔などないです。よく「かわいそうだね」などと悲観的にみられることも多いのですが、そうではなくこんな幸せもあるんだ!と強く伝えたいです。

性に関して悩んでいる人、LGBTを初めて知った人、これを機にぜひLGBTについて考える機会にしたいです。少しでも生きやすい社会になるよう願っています。

問 人権室 TEL 06・6992・1512